

令和7(2025)年度

「運営に関する計画」
(年度当初)

大阪市立栄小学校

令和7(2025)年4月～令和8(2026)年3月

不確定性の高まり・未曾有の災害
自らの人生の舵取りをする力の育成
持続可能な社会の創り手
豊かな可能性の開花

令和7年度 大阪市立栄小学校の教育

【学校教育目標】自他を大切にし、夢と希望の実現において粘り強く取り組む子どもを育てる
学力の基礎としての人権教育・人権総合学習・隠れたカリキュラム

エビデンス
説明責任
コスト/タイムパフォーマンス

令和7年4月

学習指導要領【平成29年告示】

主体的・対話的で深い学び
カリキュラムマネジメント

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- (1) 安全・安心な教育環境の実現
- (2) 豊かな心の育成

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- (3) 幼児教育の推進と質の向上
- (4) 誰一人取り残さない学力の向上
- (5) 健やかな体の育成

大阪市教育振興基本計画【令和4～7年度】

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。あわせて、グローバル化が進化した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

○中央教育審議会答申【令和3年1月26日】

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
個別最適な学びと協働的な学び、GIGAスクール構想

○中央教育審議会諮問【令和6年12月25日】

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

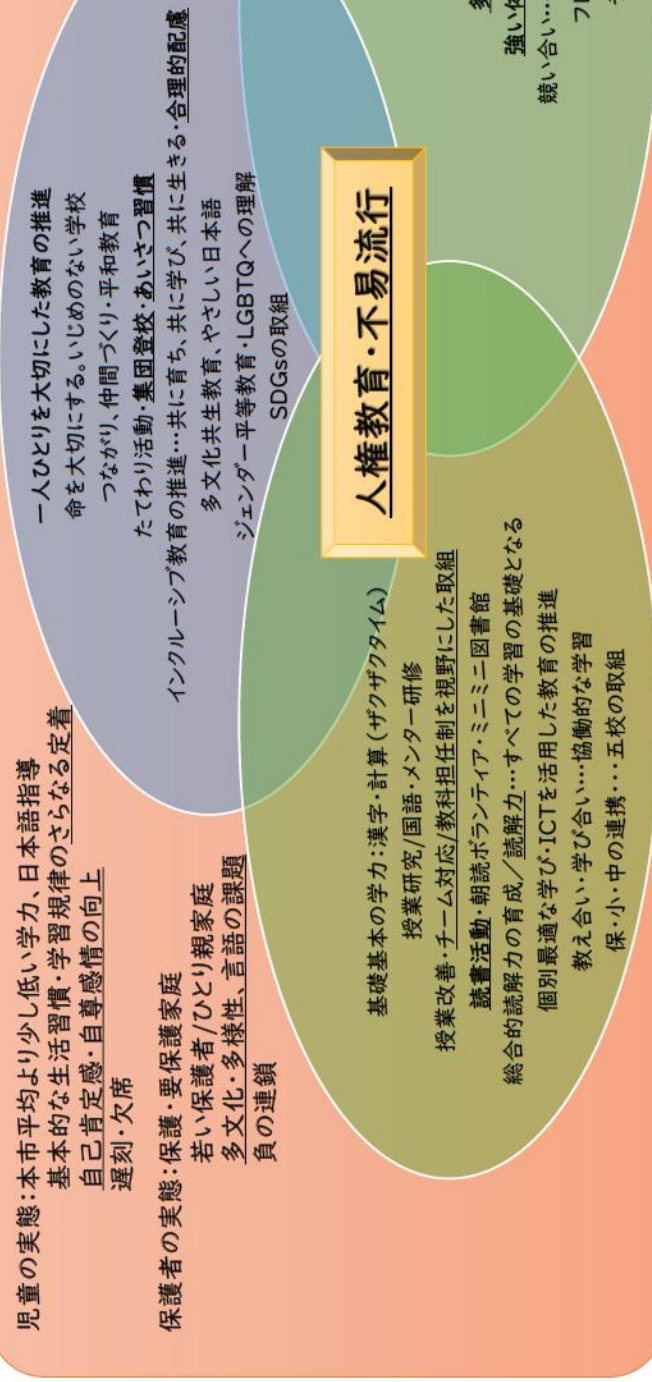
- (6) 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
- (7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
- (8) 生涯学習の支援
- (9) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

児童の実態：本市平均より少し低い学力、日本語指導
基本的な生活習慣・学習規律のさらなる定着
自己肯定感・自尊感情の向上
遅刻・欠席

保護者の実態：保護・要保護家庭
若い保護者/ひとり親家庭
多文化・多様性、言語の課題
負の連鎖

地域の実態：見守り活動、浪速人権・同和教育推進協議会
なにわ人権教育ネットワーク・プチコスモス
なにわ読み書き教室
子ども食堂、外国につながる家庭

学校の実態：人権感覚・人権に関する知識理解の向上
働き方改革、若い経験の浅い教職員
児童理解力・指導力・授業力の向上
学校統合に関する準備・対策



大阪市立栄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

教育目標を「自他を大切にし、夢と希望の実現に向かって粘り強く取り組む子どもを育てる」と掲げ、これまで人権教育を基底として取組を推進してきた。その結果、児童には「自尊感情の高まり」「他者理解の高まり」などの心が育まれてきた。これは、先達が築き上げてきた歴史と伝統を脈々と受け継いできた成果であり、他校にはない本校の「強み」であり、さらに根幹となっていくものである。開校以来、150年以上のあゆみの中で、地域や保護者の方々の温かい支えに感謝して、人権・自治・自立をキーワードに栄小学校への愛着や所属感、自己のアイデンティティを大切にした教育を推進してきた。

人権教育に関しては、「一人ひとりを大切にした教育」を推進し、命を大切にし、いじめのない安全・安心な学校をめざしている。特に朝の集団登校・あいさつの習慣に関しては、地域の見守り隊の方々、PTAの協力を得ることで、地域と一体となって取り組むことができている。毎朝、子どもたちの登校の様子を見守っているが、「集団登校ができていない」「朝ご飯を食べていない」とアンケートで答える児童も、10%強に至っている。「浪速地域ネットワーク事務所」等関係諸機関との連携を密に図り、情報を共有することで、全児童を取り残すことにならないようにしている。また教職員の人権研修についても計画的に実施し、校内外の研修、新転任者への研修等、浪速人権・同和教育推進協議会との連携を図りながら、教職員それぞれの人権感覚を磨き高めるようにしている。本校の実績として、令和3年度から、学校で認知したいじめの解消率を100%にし続けることができている。今後も学校・地域・保護者が一体となって、児童の豊かな心の育成に務め、安全・安心な教育を推進していく。

「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育については、一人ひとりの児童の状況に応じて合理的配慮を進め、日々取り組んでいる。個別の支援計画は、学期末に全教職員で内容を把握し、環境の整備や効果的な働きかけができるように共有し、障がいのあるなしに関わらず、「一人ひとりの児童がつながる」教育をめざしている。令和6年度の児童アンケート「人にはそれぞれ違いがあっていいと思う」と肯定的に答えた児童は100%に達した。今後もすべての児童が互いを認め合い、生き生きと活動することができる教育環境を生み出していくようにする。

多文化共生教育にも重点を置く。外国につながる児童・保護者の割合は3割を超え、その国籍も様々である。家庭内の言語が日本語と異なるケースもあり、児童の言語環境を捉えたきめ細やかな配慮が欠かせない。学校の様子や連絡、お知らせをやさしい日本語で発信したり、配布物に多言語化処理を施したりしながら、多文化・多様性に適応できるようにしている。学習上・生活上配慮を要する児童や家庭も多く、児童の実態や様子を共有する場を設け、児童・保護者に寄り添った対応ができるよう、全教職員で共通理解を図っている。

学力については、令和4年・5年度の大阪市小学校学力経年調査の結果において、3年生～6年生の国語の平均正答率が大阪市の平均正答率より低い。特に、漢字や文法などの「基礎」の正答率よりも、考えや感想を表す「活用」の正答率が低い傾向にある。その中で令和6年度の3年生の国語の平均正答率は、大阪市平均を上回るという結果を得た。これは、積み重ねてきた学力向上の取組が、成果として現れた結果であると考え

る。

算数においては、基礎・基本となる学習内容の定着を図ることができつつある。令和5年度の調査では、5年生・6年生の平均正答率が大阪市平均を上回った。また、令和6年度の調査においても、3年生と5年生が大阪市平均を上回り、令和4年度以前に比べて、学力の定着が見られている。しかしながら、日常生活の問題を解決するために、算数で学習したことをもとに、目的に応じて数量の關係に着目し数の処理の仕方を考えたり、基準量、比較量、割合の關係や、その数量關係について考察したりすることには、依然として課題が残っている。それらを改善するために「ザクザクタイム」「少人数学習・教科担任制」「放課後学習の機会の確保」等、実態に応じた工夫を行い、学習習慣を確立していくことをめざす。

読書習慣については、令和6年度アンケート「本をよく読むようにしている」と肯定的に答えた児童は58%であり、過去の調査と経年比較をしても、その割合が伸びておらず、本校の課題の一つである。浪速図書館と連携して学級文庫を充実したり、ボランティアによる朝読書の活動、雨の日や放課後に読書に親しめるミニミニ図書館を整備したりしながら、読書の啓発に向けて工夫している。朝読書の時間に教職員も一緒に読書を行い、児童と読書活動が共にできるように、読書習慣の確立に向けた取組をいっそう推進する。

体力・健康面においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果より、令和6年度の児童アンケートで「体を動かすことが楽しく、すすんで運動している」に最も肯定的に答えた児童は62.3%であり、令和5年度より2ポイント以上改善することができた。多様な遊びを各学年で取り入れ、それらが実践できる環境整備を進めながら、今後さらに体力向上の機会を確保する。歯みがきの習慣が十分ではないというアンケート結果から、そうじ後の休み時間を活用し、歯ブラシの管理を徹底しながら、歯みがきの習慣化も進めていく。

学力・体力の向上と同時に、教育環境の充実も図っていく。1人1台端末を全児童が適切に扱うことができるようにするために、コンテンツの活用を図る。児童自身が、学習内容に応じてデジタル教科書やデジタルドリルを進めていくことができるように、環境を整備する。

教職員の働き方改革については、業務や会議を精選することにより、教員が児童と関わる時間を確保したり、教材研究の時間を保障したりしている。昨年度まで、時間外勤務時間数は少しずつ減少している。定時退勤とするゆとりの日を増やし、ワークライフバランスを考慮し、誰もが働きやすい職場環境となるように取組を推進していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和５年度～７年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 97%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
100	100	100	100	

- ② 令和５年度～７年度の小学校学力経年調査、及び校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
97.3	94.4	92.3	92.9	

- ③ 令和５年度～７年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和５年度（75.9%）より向上させる。


R3	R4	R5	R6	R7
86.6	70.0	75.9	69.0	

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和７年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 100 以上(平均以上)にする。

	R3	R4	R5	R6	R7
国	99	91	98	93	
算	99	84	101	87	

- ② 令和５～７年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント以上向上させる。



	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3 卒	97					117				
R4 卒	92	96				99	99			
R5 卒	92	98	99			89	100	101		
R6 卒	92	97	97	97		91	99	103	99	
R7 卒		96	99	96			96	99	101	

- ③ 令和７年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を 97 以上にする。

- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
71.7	88.9	60.1	65.5	

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
			0	

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を 68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
	56.52	66.67	58.33	

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 95.6%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.8	中止	93.3	88.9	95.5	80.9	

- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度（1.06）より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
4.02	2.80	2.21	1.56	1.06	1.04	

- ③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を 75%以上にする。

- ④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて

(a)「集団登校がきちんとできている」において、87%以上にする。(令和6年度 80.0%)

(b)「学校のきまりやルールを守っている」において、93%以上にする。

(令和6年度 93.5%)

(c)「自分には良いところがあると思う」において、88%以上にする。(令和6年度 80.9%)

(d)「自分からすすんであいさつする」において、85%以上にする。(令和6年度 81.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 50%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
53.0	50.5	42.6	44.8	36.5	37.6	

- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント以上向上させる。

	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3 卒	97					117				
R4 卒	92	96				99	99			
R5 卒	92	98	97			89	100	104		
R6 卒	92	97	92	92		91	99	112	97	
R7 卒		96	95	91			96	96	103	

- ③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
40.7	中止	71.7	88.9	60.1	65.5	

- ④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 95 以上にする。

- ⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合

- (a) 「給食後の歯みがきをきちんとしている」において、肯定的に回答する児童を 85% 以上にする。(令和 6 年度 75.3%)
- (b) 「給食で苦手なものでもがんばって食べるようにしている」において、90%以上にする。(令和 6 年度 92.3%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
			0	

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を 68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
	56.52	66.67	58.33	

- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(令和 6 年度 61.8%)

- ④ 今年度末の保護者アンケートにおける「保護者は、手紙やホームページ、ミマホルメを見て、学校のことを確認している。」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 90%以上にする。(令和 6 年度 84.2%)

大阪市立栄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95.6%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.06)より減少させる。</p> <p>③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて</p> <p>(a)「集団登校がきちんとできている」において87%以上にする。</p> <p>(b)「学校のきまりやルールを守っている」において93%以上にする。</p> <p>(c)「自分には良いところがあると思う」において88%以上にする。</p> <p>(d)「自分からすすんであいさつする」において85%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現 】</p> <p>児童が安全に集団登校できるように指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地区別児童会」を各学期に１回実施する。 ・全校児童が集まる場で、集団登校について振り返る時間を毎月１回設定する。 ・集団登校の実施状況を教員で共有できる場を毎月１回設定する。 	
<p>取組内容②【 基本的な方向１ 安全・安心な教育環境の実現 】</p> <p>児童が互いに声をかけ合い、学校の仲間として認め合えるように、たてわり活動や異学年交流を活性化させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動を毎月１回、異学年交流を各学年で年１回実施する。 	
<p>取組内容③【 基本的な方向２ 豊かな心の育成 】</p> <p>人権教育をSDGsの視点と関連付けながら、児童の自尊感情を高めるための取り組みを行う。また、必要に応じて地域の施設を活用したり、人材を招いたりする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設を利用したり人材を招いたりする活動を各学年で年１回実施する。 ・学習したことを学校全体に広める取組を各学年で年１回実施する。 ・全学年、年間１回いいところみつけを計画的に行う。 	
<p>取組内容④【 基本的な方向２ 豊かな心の育成 】</p> <p>児童がすすんであいさつができるように指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を各学期１回実施する。 ・水曜日に「あいさつの日」を設定する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立栄小学校 令和７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を 50%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント以上向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。</p> <p>④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 95 以上にする。</p> <p>⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合</p> <p>(a)「給食後の歯みがきをきちんとしている」において肯定的な意見を 85%以上にする。</p> <p>(b)「給食で苦手なものでもがんばって食べるようにしている」において肯定的な意見を 90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 研修の充実と授業研究の実践により、教員の指導力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・全教員が様々な授業形態の工夫に取り組みながら、年1回以上の校内公開授業を行う。研究授業の際には指導案検討会と討議会を実施する。</p>	
<p>取組内容②【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 学習意欲の向上をはかる。</p> <hr/> <p>指標 ・学年末に行う学校アンケートにおいて、「進んで学習することができている。」の項目において、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増やす。</p>	
<p>取組内容③【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 歯みがきの習慣化に向けて、日々の指導と家庭への啓発を行う。</p> <hr/> <p>指標 ・学年の実態に応じた歯の指導を年1回設定する。 ・給食後の歯みがきタイムを全校で5分間実施する。また、丁寧に歯を磨けている児童を見つけ「歯の日」に合わせて発表する。 ・6月、11月に「歯みがき週間」を設定し、歯の大切や正しい歯の磨き方について学習を行う。 ・夏季休業前、冬季休業前に、歯みがきカレンダーを各1回発行する。</p>	
<p>取組内容④【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 体力向上のために、運動する機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標 ・かけあし月間やなわとび月間を年1回設定し、体育の学習を中心に運動する児童を増やす。 ・運動や遊びを紹介する取り組みを各学期に1回設定する。</p>	
<p>取組内容⑤【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 食の大切さを指導するとともに、家庭への啓発を行う。</p> <hr/> <p>指標 ・各学年で「食」に関する学習を年1回以上実施する。 ・給食だよりを毎月1回発行する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2 - 3)

大阪市立栄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。</p> <p>② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教職員の割合を 68%以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(令和 6 年度 61.8%)</p> <p>④ 今年度末の保護者アンケートにおける「保護者は、手紙やホームページ、ミマモルメを見て、学校のことを確認している。」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 90%以上にする。 (令和 6 年度 84.2%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進 】</p> <p>児童が日常的に ICT を活用する場面をつくる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の 8 割以上が、学習者用端末を日常的に活用する。 	
<p>取組内容②【 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 】</p> <p>業務内容の精選を図り、教員一人当たり平均時間外勤務時間を減らす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を年 1 回実施し、学校行事の精選や見直しを行う。 ・ゆとりの日を 2 週間に 1 回程度設定する。 	
<p>取組内容③【 基本的な方向 8 生涯学習の支援 】</p> <p>読書タイムの活用、図書室の効果的な利用、学級文庫の充実、読み聞かせの取組を行い、読書習慣の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムを週 2 回以上実施する。 ・地域ボランティアと連携して読み聞かせを月 1 回実施する。 	

<p>取組内容④【 基本的な方向 9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>学校・家庭・地域諸団体が連携し、子どもたちが安心して過ごせる地域をつくる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や地域と連携した取組を年 3 回実施するとともに、学校 H P や学校だよりなどを活用し、取組の発信を行う。 	
--	--

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点